



# 高知県理学療法士協会ニュース

No.181

2024・3・20

発行 公益社団法人 高知県理学療法士協会

## 高知県理学療法士協会創立50周年記念式典を終えて

会長 大畑 剛

先ずは、令和6年1月1日に発生した能登半島地震でお亡くなりになった方々に、お悔やみ申し上げますとともに、被災されたすべての皆様にお見舞い申し上げます。

さて、去る令和6年2月12日に、当協会創立50周年記念式典を盛会裏に終えることができました。当日は大変お忙しい中、濱田省司高知県知事様(公務のためビデオメッセージにて御参加)、弘瀬優高知市副市長様、中谷元衆議院議員様、尾崎正直衆議院議員様、梶原大介参議院議員様、田中昌史参議院議員様始め、多くの関係医療団体の皆様に御臨席いただきました。また多数の会員諸氏に御参加いただき、この場をお借りしまして改めて御礼申し上げます。

この記念事業は2部構成とし、1部に日本理学療法士協会斉藤秀之会長から「これから50年の理学療法士の展望」のテーマで特別講演が行われました。直前に迫るトリプル改定を前に、我々が今後取り組まなければならない様々な事柄を紹介していただきました。

記念式典においては、長年当協会でご尽力いただいた宮本謙三前会長、山崎裕司理事、日野工前理事に高知県からの感謝状が授与されました。また長年賛助会員として支援いただいた各団体に、当協会より感謝状を贈らせていただきました。祝賀会となった第2部では鷺春夫四国理学療法士会会長の御発声の下、高らかに乾杯を行い、コロナ禍で自粛していた参加者同士の歓談を心ゆくまで楽しむこととなりました。

さて高知県理学療法士協会は、県民の医療・保健・福祉の発展に寄与することの理念に基づき昭和46年に8名の会員にて設立されましたが、お陰様をもちまして令和3年に50周年の大きな節目を迎えることができました。この間の半世紀にわたり、御厚情を賜りました関係の皆様にお礼申し上げますとともに、高知県のリハビリテーションと理学療法の向上に尽力し貢献された先輩会員に敬意と感謝を申し上げます。

これまでの50年間を振り返りますと、理学療法及び理学療法士の役割は大きく変化してきました。かつては医療機関での限られた場所で行われていた理学療法も、現在では在宅や地域の高齢者施設など多様な場面で行われるようになっていきます。

本協会はこのような変化に対応するため、各種研修の開催、情報発信など、会員の資質向上を実現するために、一致団結して取り組んできました。昭和53年には第13回日本理学療法士学会をわずか43名の会員数で開催し、無事成功に導きました。また平成2年には全国で初めての社団法人化を果たすなど、常に革新的な行動力を持ち合わせてきました。そして現在は、会員数も1,600名を数えるまでになりました。

時代の変化に伴い理学療法の専門性が高まり、理学療法士は医療サービスと介護サービスの担い手の専門職として、ますます医学的知識や技術に加えコミュニケーション能力やチームワーク力など、優れた人格と幅広いスキルが求められています。これからもさらなる会員の資質向上と地域医療の向上に貢献できる団体を目指し、邁進してまいります。

コロナ禍で遅ればせながらの開催となりましたことを御理解いただくとともに、今後とも高知県理学療法士協会の活動に御支援と御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



\* 御祝儀の一部を能登半島地震義援金に充てさせていただきます。

### No. 181

- |                                |                           |
|--------------------------------|---------------------------|
| ◇ 高知県理学療法士協会創立50周年記念式典を終えて … 1 | ◇ 中央西区域ブロック症例検討会を経験して … 8 |
| ◇ 創立50周年記念事業開催報告 …………… 2       | ◇ オンライン新年会に参加して …………… 9   |
| ◇ 施設紹介 …………… 4                 | ◇ 知読万恵 …………… 10           |
| ◇ リレー紹介 …………… 6                | ◇ 賛助会員の皆様 …………… 11        |
| ◇ 所属施設における研修会開催の実情 …………… 7     | ◇ 編集後記 …………… 12           |

## 公益社団法人高知県理学療法士協会創立50周年記念事業 開催報告



2024年2月12日(月)ザクラウンパレス新阪急にて公益社団法人高知県理学療法士協会創立50周年記念事業（第1部：記念講演・式典、第2部：記念祝賀会）を開催いたしました。

第1部の記念講演・式典には、国会議員の先生方をはじめ、四国内および県内の医療関係団体や賛助会員の皆様、そして歴代会長や一般会員など、160名を超える多くの方にご出席いただきました。

記念講演では、日本理学療法士協会会長の齊藤秀之先生に「これから50年の理学療法士の展望」というテーマにて講演をいただき、我々高知県理学療法士協会の会員に対し、これからの道筋を示していただくとともに、多くの励ましの言葉をいただきました。



記念式典では、当協会の大畑会長が挨拶に立ち、来賓をはじめ関係者に向けて感謝の意を表するとともに、これまでの諸先輩方が築いてこられた伝統を引き継ぎながらも、これからの時代に即した協会運営を行っていくと決意を述べられました。



来賓祝辞では、高知県知事濱田省司知事よりビデオメッセージの上映後、中谷元衆議院議員、尾崎正直衆議院議員、桑名龍吾高知市長（代理・弘瀬優副市長）、野並誠二高知県医師会会長が順に登壇され、祝辞を述べられました。



中谷元衆議院議員

尾崎正直衆議院議員

弘瀬優副市長

野並誠二医師会会長



記念表彰では、高知県より宮本謙三会員、日野工会員、山崎裕司会員の3名の先生方に感謝状が授与されました。また、長年、賛助会員として当協会を支えてくださった19施設には、当協会より感謝状をお送りさせていただきました。



第2部の記念祝賀会では、冒頭の大畑会長の挨拶後、田中昌史参議院議員、梶原大介参議院議員、斉藤秀之協会長より祝辞が述べられました。



梶原大介参議院議員

田中昌史参議院議員

斉藤秀之協会長

その後、盛大に鏡開きを行い、四国理学療法士学会の鶯春夫会長により乾杯のご発声をしていただきました。



和やかに懇談が行われるなか、アトラクションとして、ギタリストで作曲家の山下俊輔氏、ピアニストの朝香知子氏、ヴァイオリニストの須賀麻里江氏による演奏が奏でられ、祝賀会に大いに華を添えていただき、盛会の内に終了しました。



### 【ご案内】

記念式典の中で放映しました「高知県理学療法士協会50年のあゆみ」はこちらのQRコードよりご覧いただけます。



# 施設紹介

## 医療法人 仁栄会 島津病院



医療法人 仁栄会 島津病院 田村 実

皆様、COVID-19対策では日ごろから非常に気の抜けない日々をお過ごしかと思います。

所属する医療法人 仁栄会 島津病院 について紹介させていただきます。「なんでも鑑定団」の時のCMで見かけた方もいらっしゃるかと思いますが、当院は1973年に四国初の人工腎臓センターとして開業されました。以降、透析医療を中心に地域医療を行っています。

当院は高知市比島町（ひじま交通公園隣）に位置する透析医療を中心とした総合病院（外科・内科・リウマチ科・人工透析内科・人工透析外科・整形外科・糖尿病内科・皮膚科・泌尿器科・循環器内科・消化器外科・消化器内科・腎臓内科・肛門外科・リハビリテーション科）です。病床数69床で、うち59床は一般病床、10床は地域包括ケア病床となっています。

スタッフはPT10名、OT2名が在籍しており、入院患者様ならびに外来患者様のリハビリテーションを行っています。



当院のリハビリテーション科の特徴としては、やはり透析医療を行う病院ということもあり、透析治療を行っている患者様が半数以上を占めているのが特徴です。また透析治療中に運動指導を行い、透析時運動指導加算を算定しているという点も他の施設とは異なる点となります。これは透析中に運動指導を行うことで算定でき、当院のリハビリテーション科にとって、新たな報酬源となっています。また糖尿病専門医も在籍しており、

糖尿病療養指導士や腎臓リハビリテーション指導士など内部疾患のリハビリテーションに関する資格取得を目指す上でとても適した環境といえます。

リハビリテーション科としての治療対象は主に整形疾患が中心で、特徴としては他の病院と比べ下肢切断の患者様が多いのではないかと思います。多くは虚血性疾患による切断で、足趾、サイム、下腿、大腿切断と多様な切断患者様の治療にあたっています。また資格取得などのサポートもしており、腎臓病や糖尿病分野での資格取得に対しては手当が支給（5,000円～）され、年1回は学会や研修会への出張旅費・参加費を負担してくれます。その他にも軽費で参加できる研修会にもサポートがあります。スタッフも目下、資格取得に向けて研鑽しています。科内では学習の時間を設けており、グループワークを中心に科内全体のスキルアップに取り組んでいます。

当院でのリハビリテーションスタッフの採用方法は昨年度より、初年度は1年間の有期雇用とし、その後

に本採用を検討するという形になりました。これは入職者の質的要素を重視する目的と、入職者が病院やリ

ハビリテーション科を良い意味でも悪い意味でも判断する期間となります。これにより入職者が求める病院、病院が求める人材両方の評価を行う仕組みとなっています。

難しい話はこのくらいにして、当院には2つの福利厚生施設があります。「海の家」と「山の家」と呼ばれています。「海の家」は種崎にあるプール付のマンションで、夏には子供をつれてプチ旅行気分泳いで、プールサイドでバーベキューをしたりすることが出来ます。リハビリテーションスタッフも利用しており、家族サービスに貢献しています。一方、「山の家」は正蓮寺の高台にある和風の平屋一軒家で広い庭から高知市を一望でき、眺めは昼も夜もきれいです。囲炉裏があり鍋を囲みながら談笑することもできます。こちらにもバーベキュー用のコンロや大鍋用の窯も設置されており、春には筍をゆがいて食べたり、山菜を調理したりして楽しむこともできます。どちらも格安で借りることができ、職員のリフレッシュに役立っています。

以上、簡単ではございますが、島津病院リハビリテーション科の紹介とさせていただきます。



コルセット・装具・義足・義手・杖

# 宮本義肢製作所

(社) 日本義肢協会 登録番号 中四国 143

代表者 門 脇 伸 仁

高知市土居町11-15 TEL & FAX (088) 833-6864



## 会員紹介

リハビリテーション病院 すこやかな杜 植木 裕太

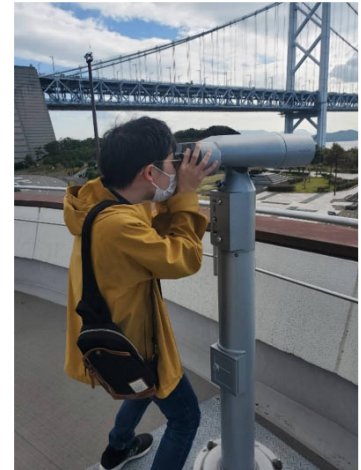
こんにちは。専門学校時代からの友人で同期である行宗裕さんからバトンを受け取りましたリハビリテーション病院 すこやかな杜に勤務している植木裕太と申します。行宗さんとは学校のクラスも一緒に、バトミントンサークルなどで一緒に楽しく学生時代遊んでいました。

私は高知リハビリテーション学院を卒業してすこやかな杜に入職して8年目となります。患者様の予後予測や、アプローチの仕方だけではなくQOLを高めるためにどのような福祉用具が必要か、地域資源へシームレスにつなげていくかなどを考えながら日々奮闘しております。上司や同僚、病院のスタッフに助けていただきながら、楽しく仕事をする事ができています。

私生活では、時々友達と旅行に行くなど独身ライフを謳歌していますが、もうそろそろ結婚なども考えないといけないと思い、努力している最中です。

以上、簡単ではありますが自己紹介とさせていただきます。

次回は病院の後輩である関岡颯太さんにバトンをつなぎたいと思います。よろしくお祈りします。



障害者支援施設こくふ 石山 雄一

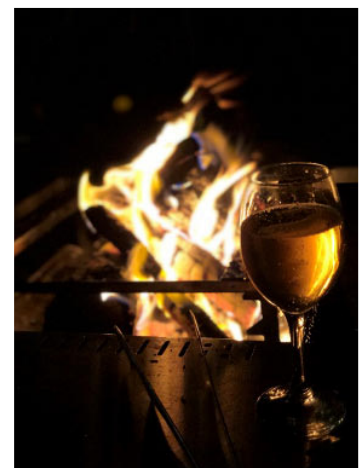
みなさん、こんにちは。高知病院の松田裕文くんからバトンを受けました石山と申します。

12年ほど前より現在の職場である障害者支援施設こくふに勤務しています。利用者様の身体機能維持や生活場面への介入、車椅子作製、またここ数年は衛生管理者として、産業医や他の衛生管理スタッフと共に職員の健康管理や職場環境整備など働きやすい職場づくりにも微力ながら努めております。

さて広報誌へ投稿させていただくのは、およそ20年ぶりになるのではないかと記憶しています。この間、プライベートに仕事にと、自身を取り巻く環境は大きく変わったのですが、変わらないものを挙げるとすれば、「楽しく生きる」、「時間を有効に使う」という私の生き方かなと思います。釣り、キャンプ、ランニング、家庭菜園、アニメにゲーム、音楽、酒、投資運用・・・と、趣味を挙げればきりがありません。また一旦ハマるととことん追求したくなる性格のため時間がどうしても足りず、口癖が「もう一人自分がほしい」、「一日が36時間になれば」といつも周りの人間につぶやいています(笑)

「楽しく生きる」、この考えは利用者様の生活に関わる者としては外せない視点であり、仕事を続けていく上でも自身が楽しめなければ本当の意味で相手を幸せにできないのではないかと日々感じながら過ごしています。医療、介護業界で働き続けている方の中には、患者様利用者様のためならばと自分自身を追い込む、また昨今の介護人材不足からそうせざるを得ない状況に陥ってしまっている方もよく見られます。そのような状況でも幸せを感じて仕事に打ち込んでいるのであれば問題ありませんが、少し疲れた、本当にこれでいいのだろうかなど今の働き方に少しでも疑問を感じている方がおられましたら、無理せず一度自身の働き方、生き方を見直してみることをおすすめします。

人生100年時代、ダイバーシティ化が急速にすすんできている今だからこそ、限られた時間の中で本当に自分がやりたいこと、幸せを感じられることを考え行動してみませんか？ ダラダラと私見を述べさせていただきましたが、そろそろ次のバトンを、学生時代からの友人であり常に自分の信じた道を有り余るバイタリテイで突き進んでいる明崎禎輝くんに繋ぎたいと思います。よろしくお祈りします。



※バトンを引き受けた会員の皆様は、令和6年5月15日までにkouhou@kopta.netまで原稿をお送りください。

## 所属施設における研修会（県協会承認）開催の実情

田野病院 森下 誠也

当院リハビリテーション部で行っている勉強会は3種類あります。その中で登録PTもしくは認定PTが講師を務める際に、登録理学療法士セミナーの開催申請を行っております。

基本的に対面方式としていますが、家庭の都合や産休・育休、365日実施体制であることなどから全員参加は不可能です。そのため、ポイントは付与できませんが録画を行い、希望者には後日一定期間視聴できるようにし、なるべく多くのスタッフが参加できる体制を作っています。自宅が遠方のスタッフの帰宅時間が遅くならないようにするため、また研修会自体を負担に感じるスタッフもいること、後日の録画視聴のしやすさ、ポイント申請の最低基準なども考慮し開催時間は30分としています。

講師選定は部署内の教育委員会で行います。講師依頼し了承が得られれば、講師は履修ポイントを得られないことを伝え、カリキュラムコードを参考に内容を検討し開催日の2週間前までに決定するようにしています。なるべく開催頻度の少ないカリキュラムコードを選択できるように考えてはいますが、十分ではありません。

講師になることへの重圧や資料作成への負担増のため講師依頼を了承してもらえない場合もありますが、了承できない理由としてポイント付与が無いことは聞かれません。

履修ポイントの管理は、スタッフ数が多いため一括では十分に管理できないため個人での管理としています。部署内勉強会によるポイント付与申請については参加者にポイント申請の有無を聞き取り、教育委員が一括して申請を行っています。

勉強会開催について難渋している点については大きく2つの点が挙げられます。

### ① 日程の調整

ひと月に3種類の勉強会の開催と部門別・部署別のミーティングを開催するため、開催日の決定には毎回難渋しています。工夫している点は、研修会ごとに担当を決め講師と打ち合わせを行い、研修内容やカリキュラムコードなどを決めてもらっています。決定した内容はグループラインで逐一報告し共有しています。

### ② カリキュラムコードの選択

前述したように勉強会では、開催頻度の少ないカリキュラムコードを選択するようにしていますが、講師が伝えたいテーマで講義してもらうことも講師側のモチベーションを保つために必要だと考えています。そのためカリキュラムコードと講師の話したい内容に折り合いをつけることに苦労しています。

登録PT更新のためのポイント取得が所属する職場でできることは、職員の金銭的負担への軽減効果が多少なりともあると考えており、今後も積極的に活用していこうと思います。一方で、講師側については目に見えるメリットが少なく、負担に感じるスタッフがいることも事実であり、この点に関しては今後検討の余地があると考えています。

## 中央西区域ブロック症例検討会を経験して

訪問看護ステーション I am 掛水 孝哉

今回、中央西区域症例検討会にて発表させていただきました。

発表内容は、中山間地域における低活動高齢者の屋外活動再開への取り組みでした。この症例を通じて意欲が低く低活動の方に対して、ご本人に合った適切な治療や声掛けなどを考え、ご本人の力で生活していくための意欲や希望を引き出す難しさを感じると同時にやりがいも感じました。訪問看護ステーションでの理学療法士としては、身体機能の改善のみならず自宅の環境調整など、在宅生活を継続していくためには何が必要なのか、あらためて考えることができました。また、活動しやすい状態になることで、前向きな発言が聞かれるようになったり、活動的になったりと行動変容がみられ、良いサイクルへと繋がることも経験しました。

発表としては、病院勤務の聴講者が多い中で、訪問ならではの問題や課題にどう向き合い解決に至ったのかを伝えたいと考えました。特にご本人だけでなく、ご家族の状況や関係性、家庭環境も考慮する重要性を感じ、そういった部分も含め発表内容を構成しました。質疑応答では、訪問に携わる理学療法士としてご本人が自立できるようにどう支援していったのか、姿勢の観点から治療戦略を考えていることなど、自分自身が意識していることや大事にしていることを伝えました。聴講者からは環境調整の工夫や在宅復帰された際に、病院からどのような情報が必要なのか意見や相談を頂き、視野が広がりました。

発表を通して、自分自身の治療戦略が間違っていなかったことが確認でき、不足していた部分を助言していただけたので、今後の臨床に活かして精進していきたいと思います。

私たちは、**福祉用具のレンタル販売・住宅改修**などを通じて、

快適な在宅介護をお手伝いします。



株式会社 **トーカー**

高知営業所 事業者番号：3970104919

〒781-0087 高知県高知市南久保 14-10

TEL 088-885-6511 FAX 088-885-5943

<https://www.tokai-corp.com/>

**フリーダイヤル 0120-00-6500**



## オンライン新年会に参加して

社会医療法人近森会 近森リハビリテーション病院 江口 裕子

2024年1月13日（土）に毎年恒例の「高知県理学療法士協会新年交流会」が開催され、自宅から参加させていただきました。

新年交流会自体への参加が久しぶり、且つ開催形式がオンラインであり、オンライン飲み会が初経験の私には楽しみでもあり緊張もしておりました。

はじめは画面越しにどのような会話をしてよいか戸惑いもありましたが、厚生部の方々が中心になって全体が会話しやすいように話を振ってくださったおかげで、世間話から、自身の病院や施設の現状、今後の理学療法士協会の事など様々な会話を交わすことができました。お酒を飲んだり、おつまみを食べたりと自由に飲食可能でしたので、お酒片手に気楽に参加することができました。

中盤では恒例の「くじ引き大会」が開催されました。少人数ということもあり当選確率が高く大いに盛り上がりました（ちなみに自分は当たりませんでした）。後半は、さらに4人程度の小グループに分かれ、密に会話できるよう段取りをしていただきました。自分のグループは、同じ職場の後輩や元職場の同期、養成校の先生との4人でした。オンラインではありますが、グループが少人数であったため身近に感じることができ、たわいもない話から仕事の話などいろいろな会話を楽しむことができました。このような機会を増やすことができたらいいなと感じました。

今回の新年交流会は、参加者が15名程度と、やや寂しく感じましたが、実際に参加してみるとオンラインであれば少なめの人数の方が会話しやすいという印象もありました。また高知県下の養成校の先生方、他病院や他施設で活躍されている先生方、かつて同じ職場で切磋琢磨した同期も参加しており、普段なかなかお話しする機会がない方々ばかりで、とても貴重な場に参加できうれしく思いました。

今回に限らずですが、コロナ禍以降飲み会が減り、職場内はもとより高知県下の理学療法士同士の飲み会、交流会が減っており、参加者も激減しているのが現状かと思えます。

自分自身、現在の職場へ入職した新人時代は、わけもわからないまま、新年会、忘年会などに参加し、2次会、3次会と参加した際は次の日眠気と戦いながら仕事したことを懐かしく思えます。当初は飲み会自体に参加するメリットもよくわからないまま参加していました。しかしいろいろな飲み会に参加していくと、仕事の話やプライベートの話、たわいもない好きな食べ物・趣味の話をする中で、職場でのコミュニケーションが増え「なんか、患者さんのことで今まで以上に会話したり、相談したりしやすくなって働きやすいな」と素直に感じるが増えていきました。且つ、意気投合したスタッフとはプライベートでも遊んだり、旅行に行ったりと楽しく過ごし、逆につらいことがあったらお互い不満をもらすこともでき、また頑張ろう！と励まし合うことができました。

今回のような職場以外の方との飲み会も、理学療法士として様々な実のある情報収集につながり、繋がりを増やすことで相談ができたり、研修会の講師を依頼できたりなど、人脈を増やす機会にはもってこの場であると再確認しました。しかしながら職場の若手のスタッフにも自分が感じたような飲み会のメリットを感じてほしいと思う反面、押し付けるわけにもいきません。交流会に自らの意志で参加し良さを感じることができるようにするにはどうしたらよいか、課題だと感じました。私も会員の一人としてみなさんとともに高知県理学療法士協会を盛り上げていけたらと思います。



## 大学教授こそこそ日記

当年62歳、学生諸君、そろそろ私語はやめてください

〈多井 学, フォレスト出版, 2023〉

4月から、土佐リハビリテーションカレッジが土佐健康科学大学を開学し、高知県内の理学療法士養成校も「専門学校」「専門職大学」「(一般)大学」と三者三様の学校になる。これらがどう違うのかはわかり難いのだが、説明するとなるとなおさら難しい。簡単に言うと、大きく分けて専門学校(医療系)は厚生労働省管轄、大学は文部省管轄である。それで無理やり一言で教育理念をいうなれば、専門学校は『職人』を、専門職大学は『技師(技術家)』を、大学は『学者(学識者)』を育てる教育機関、ということになるのではないかと思う。なおこれは、あくまで小生の独断的理解であるので悪しからず。また本来、大学は研究機関であって研究者を育てることを目的としたものであるが、いまはその役割が大学院に移っている。

さて養成校の教員というと、臨床に比べれば肉体的に楽で気楽な稼業と思われがちである。しかし実態は、事務・教務業務、学生募集や臨床実習施設への対処など対外的業務、学生対応など、結構大変である。臨床家としての実績を積んできて、教育者としての経験は一からということになり、授業は仕事の一部で、多くは専門とは関係のない言わば雑務である。特に最近多いモンスター・ペアレントの対応などでは、手を焼き時間を取られてしまうだけでなく、精神的負担がしばらく尾を引くのである。

ここに紹介した書は現役大学教授のウラ話の綴りで、昼休みにでも気楽に読める一冊である。少しは教員の、臨床とは違う教育場面での心労がわかってもらえるかと思う。

話題を変えて、令和6年度、医療報酬・介護報酬・障害者福祉サービス等報酬のトリプル改定と第8次医療計画がスタートする。改定や計画の意図を知るには歴史からということ、これまで医療や介護の制度がどのような社会的背景によって変貌してきたかを学びたい向きには、医療と介護の法律入門〈児玉安司著、岩波新書、2023〉の一読をお勧めする。本書は、法文の解説や理解のための書ではなく、法律が制定されてきた歴史的経緯を簡明に著してあり、厚生労働省の大意を理解するに参考となる。

(山本双一)

みんなが暮らしやすい住環境提案  
リフォーム&福祉用具



<https://aico.tosagas.co.jp/>



**aico**

[あいこ]

土佐ガス株式会社

●朝倉  
☎088-828-8580

〒高知市朝倉西町1丁目10-16  
☎月曜～金曜 9:00～17:30 (祝日・年末年始を除く)

●しまんと  
☎0880-35-4372

〒四万十市古津賀1丁目139  
☎月曜～金曜 9:00～17:30 (祝日・年末年始を除く)

# 賛助会員の皆様

## 令和5年度賛助会員名簿

施設名	住所	診療科・他
(医)瑞洋会 田中整形外科病院	〒780-0901 高知県高知市上町3-2-6 TEL 088-822-7660 FAX 088-875-8583	整形外科、リハビリテーション科、麻酔科、 ペインクリニック内科、リウマチ科、内科(病棟)
(医)新松田会 高知医療学院	〒781-0270 高知市長浜6012-10 TEL 088-842-0412 FAX 088-841-1783	理学療法学科
(医)白菊会 白菊園病院	〒781-1154 土佐市新居萩の里1 TEL 088-856-1101 FAX 088-856-3364	内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、外 科、整形外科、脳神経外科、消化器外科、小児 科、リハビリテーション科
(医)仁智会 ヘルシーケアなはり	〒781-6402 高知県安芸郡奈半利町乙3740-1 TEL 088-738-5566 FAX 088-738-5564	入所、ショートステイ、通所(デイケア)
(学)土佐リハ学院 土佐リハビリテー ションカレッジ	〒781-5103 高知市大津乙2500-2 TEL 088-866-6119 FAX 088-866-6120	理学療法学科・作業療法学科
(社医)仁生会 細木病院	〒780-8535 高知市大膳町37番地 TEL 088-822-7211 FAX 088-825-0909	総合診療科、内科、外科、整形外科、小児科、 耳鼻咽喉科、緩和ケア科、放射線科、泌尿器科、 脳神経センター(脳神経外科)、専門外来、セ カンドオピニオン外来、病理診断科、麻酔科
(医)南の風 みなみの風診療所	〒780-0061 高知市栄田町3丁目7-1 TEL 088-826-3730 FAX 088-826-3731	リハビリテーション科、総合内科、在宅医療、 通所リハビリテーション、訪問リハビリテー ション
(医)五月会 須崎くろしお病院	〒785-0036 須崎市緑町4-30 TEL 088-943-2121 FAX 088-842-1582	内科、外科、整形外科、脳神経外科、小児科、眼 科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、皮膚科、リハビリ テーション科、放射線科、麻酔科、人間ドック
(医)新松田会 愛宕病院	〒780-0051 高知市愛宕町1-1-13 TEL 088-823-3301 FAX 088-823-3306	内科、外科、整形外科、脊椎外科、脳神経外 科、婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、心 療内科・精神科、皮膚科、ER蘇生センター
(学)高知学園 高知リハビリテー ション専門職大学	〒781-1102 高知県土佐市高岡町乙1139-3 TEL 088-850-2311 FAX 088-850-2323	理学療法学専攻・作業療法学専攻・言語聴覚 学専攻



## 編 集 後 記

春らしい心地よい季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。卒業式を終え新天地へ踏み出した新人PTの皆様は、不安とワクワクで頭がいっぱいなことでしょうか。また、新入社員を迎える現職の方々も、新人教育プログラムや新たな体制づくりなど忙しい時期となりましたね。今号の巻頭言でも触れられていますが、今年は診療報酬制度の「トリプル改定」の年でもあり、我々広報部としても会員の皆様に改定に関わる情報を分かりやすくお届けできるようアンテナを張って臨みたいと思っています。

今号の巻頭言、7頁8頁では、先日盛大に開催されました「高知県理学療法士協会創立50周年記念式典・祝賀会」に関する内容を掲載しています。協会の半世紀の歩みや、いかに本協会がたくさんの方々に支えられているかが伝わる記事になっていると思います。8頁の最後には「高知県理学療法士協会50年の歩み」のPVも案内していますので、ぜひご覧になってください！かなりカッコいい動画ですよ。

また、別の機関紙の宣伝になりますが、当協会から年に1度発行している「ばわふるとさ！15号」が本紙と同日に発行されました。今号から県内の全高校の図書室宛に発送されておりますので、お子様が高校に通われている方や、学校関係の知人がいらっしゃる方はぜひ宣伝をお願いします！

最後に、来年度から「高知県理学療法士協会ニュース」は年4回から年3回の発行に変更となりますが、ボリュームの増大やデザインの刷新、新たなトピックスの追加などバージョンアップを計画しておりますので楽しみにしててください！

(濱尾 英史)

高知県理学療法士協会ニュース No.181 令和6年3月20日発行

発行所 公益社団法人 高知県理学療法士協会

〒780-0054 高知県高知市相生町1-25 レジデンスノナミ107号室

TEL & FAX (088) 879-8023

<http://www.kopta.net> e-mail:jimukyoku@kopta.net

発行者 大畑 剛

広報部編集委員会

